

令和 2 年 度 事 業 報 告

令和 2 年度は、一般社団法人になり 8 年目であった。

令和 2 年 1 月から流行したコロナウイルス感染症は、日本国中で猛威を振るい新潟県でも 1 年間で 2,000 名近くの方々が感染して、死亡者も 30 名程度出た。薬局の業務もかなりの影響を受け、患者数は減り減収となった薬局が多くなった。薬局の感染症対策については、国の支援を受けて行われた。

「休日・夜間院外処方せん応需事業」については、コロナウイルス感染症流行のため、新発田地区救急診療所の受診者が激減し、受診者は令和 1 年度に比べて約 30%しかなかった。コロナウイルス感染症対策を強化し業務は継続したが、事業は大幅な赤字となった。平成 27 年度より受託した中条地区休日診療所の調剤業務は順調に行われた。村上市では、インフルエンザの流行が無かったため、出務は無かった。

本会が継続運営している FAX コーナーについては、設置している全病院で通過件数が減った為通過単価が上がった。

支援センター薬局については、昨年度に比べて処方せん枚数が減り収入も減ったが、常勤薬剤師の確保が半年間できなかったため、人件費が少なかったことなどから収益は前年並みとなった。常勤薬剤師の確保が 9 月にできた為運営も余裕が出てきた。

不動産在庫医薬品売買支援事業については、昨年度より会員薬局の利用・販売額ともにさらに減り差損益も減った。しかし事務作業に係る人件費を出しても収益は出た。

在宅医療への参加については、他職種連携の動きはあったが、コロナウイルス感染症の影響で研修会などは Web が中心になり行われた。

ときネットは薬剤情報共有システムの稼働はなかなか進まず、参加医療機関が増えていないこともあり本格的な稼働には至っていない。村上地区においても同様な動きがあり、参加薬局は多いのだが、本格的な稼働には今年度も至らなかった。

今年度も薬学生実務実習は、1 期 5 名と 2 期に 2 名、3 期は 4 名の受け入れを行った。コロナウイルス感染症の影響で集合研修はできず、実務実習指導薬剤師同士の交流もなかった。

令和 2 年度は、学校薬剤師報酬の値上げの要望書を管内の行政に提出しなかったためか、報酬の値上げは無かったが、新発田市において器具の購入を令和 3 年度に行うと連絡があった。

会費については、県薬の会費検討委員会がまだ結論を出しておらず、当会の会費検討委員会も開催はなかった。

[重点事業報告]

1. 「休日・夜間院外処方せん応需事業」は、コロナウイルス感染症の流行の為新発田地区救急診療所の受診者が激減し、前年度と比べると受診者数・収入ともに 30%くらいだった。収入は当然激減し、約 1,300 万円の赤字となり救急診療所設置者より補てんがされた。

今年度も処方せんは新発田地区救急診療所からのものだけとは限らず、他の医療機関からのものも見受けられ、昨年度よりは応需医療機関数が減ったが、事業を行なうことにより地域の皆様のお役に立てていることを実感できた。

また、中条地区休日診療所薬剤師派遣事業は、新発田地区と同じ理由で受診者数が激減した。

村上急患診療所への薬剤師の派遣は、インフルエンザの流行が無かったため派遣は見送られた。

2. かかりつけ薬局推進事業は、今年度も皆様のご協力を得て順調に事業は継続された。年々FAXの通過枚数は減り人件費も少しずつ上がっている為通過単価が上がっている状態が続いている。(4ページ参照)
3. 下越薬剤師会支援センター薬局は今年度も順調に業務を行なった。処方せん枚数・及び収入は微減だった。エアコンの入替を行ったため支出は増えたが常勤薬剤師の確保が半年間できなかつたことなどで収入は昨年並みとなった。
4. 不在庫医薬品の買取・譲渡は、売買率の変更はなかった。昨年度より取扱い品目・医薬品数は減り、収益も減った。(5ページ参照)
5. 在宅医療の推進は、コロナウイルス感染症の流行で研修会はWebが主流になり、集合の研修はほとんどできなかつた。そのような状況もありトキネットは薬剤情報共有システムの稼働できる状態になっていたが、本格的な稼働には至っていない。村上地区もほぼ同様の動きがあった。
6. 今年度の研修会は昨年度に比べて、外出自粛要請などの影響で開催回数は減り、参加人数も減った。Webの研修会が年度後半より認められたため研修シールをつけた研修会だけで年間10回、参加総人数はのべ271名であった。(6ページ参照)
7. 情報委員会は、下越薬剤師会ホームページのメンテナンスと改良等を行った。
8. 薬学生実務実習委員会はコロナウイルス感染症のため集合研修・実務実習指導薬剤師の交流は何も無かつた。
9. 会費検討委員会は、新潟県薬剤師会の会費は変更がなかつたことから、令和2年度も開催を見送った。

[項目的事業報告]

1 会 議

- ・ 総 会… 令和2年6月20日 (下越薬剤師会支援センター2階会議室にて)
令和3年3月27日 (下越薬剤師会支援センター2階会議室にて)
- ・ 理 事 会… 令和2年5月30日、6月20日、11月14日、

- 令和3年2月20日、3月27日、
・ 総務委員会・・・ 令和2年5月29日、11月12日、令和3年2月6日

2 委員会等

(1) 情報委員会……下越薬剤師会にて

今年度は、次の4点について活動した。

- ① 下越薬剤師会ホームページのメンテナンスを行った。
- ② B-Bickの改良を行った。
保健所からの指導により分割販売依頼書の様式を変更した。変更報告書の作成時の不具合等を改善し、バージョンアップを行った。
- ③ 薬価改定他、薬価収載、名称変更のB-Bickのデータの更新とメンテナンスを行った。
- ④ 医薬品在庫共有サービス（メドシェアについて）導入の検討を行った。
- ⑤ 薬剤師会の新サーバーを検討して新しく入れ替えを行った。
- ⑥ Webで行われた新潟県薬剤師会主催の、令和2年8月23日の保険薬局研修会のサポートを行った。
- ⑦ 下越薬剤師会でZoomのホストが可能か検討した。
- ⑧ 令和3年度に計画されているDSEによる不働在庫医薬品の販売が可能か検討した。

活動日・・・下記の計8回

令和2年6月26日、7月17日、9月11日、10月16日、11月20日、
12月18日、令和3年2月26日、3月29日

学術委員会学術研修会及びその他の研修会（6ページ参照）

・新発田地区・下越全体対象研修会・・・6回と医師会3回参加
その他の地区の研修会・共催の研修会・・・1回

(2) 休診委員会・・・下越薬剤師会会館にて

休日夜間院外処方せん応需事業出務の会員からの、賦課金を見直すため
休診委員会を発足させて出務料・賦課金額の見直しを行った。

活動日・・・

令和2年7月30日、8月28日、10月20日、12月11日